

課題名	113 キウイフルーツの施設栽培 1) 雨よけ施設による生産安定	分類	①
試験研究年次	63~1年(完了)		
<p>1 目的</p> <p>雨よけ栽培による病害予防効果を明らかにして、生産安定技術確立の資とする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験場所 現地(八女郡立花町)</p> <p>2 供試樹 ハイワード5年生(Tバー仕立て)</p> <p>3 試験区</p> <p>(1) 3月下旬~6月上旬雨よけ</p> <p>(2) 3月下旬~7月下旬 "</p> <p>(3) 対照(露地)</p> <p>4 処理方法</p> <p>萌芽直前の3月27日に間口3mの雨よけ施設(大型トンネル)にビニル被覆し、6月上旬及び梅雨明け後の7月下旬に除去した。</p> <p>5 調査方法</p> <p>花腐れ細菌病の発生程度は開花期に調査した。果実は収穫後3ヶ月貯蔵したものをエチレンで24時間処理をし、20℃で2週間追熟し、果実軟腐病の発生程度を調査した。</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 花腐れ細菌病の発生は、雨よけによって著しく少なくなった。ただし、Tバー仕立てであるためトンネル両側部の結果枝は雨に当たり、花腐れ細菌病の防除効果は全く認められなかった。</p> <p>2 雨よけによって果実軟腐病の発病度は、露地に較べて小さくなる傾向にあるが、ビニル除去時期の違いによる差は認められなかった。</p> <p>以上の結果、雨よけ栽培は花腐れ細菌病の防除に有効であるが、果実軟腐病の防除効果は明らかでなかった。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 花腐れ細菌病及び果実軟腐病の防除効果 (63年)

試験区	調査花数	被害花数	被害花率(%)	軟腐病発病度
3月下旬~6月上旬雨よけ				
(トンネル中央部)	300	4	1.3	0
(トンネル両側部)	300	36	12.0	0.11
3月下旬~7月下旬雨よけ				
(トンネル中央部)	300	2	0.7	0.33
(トンネル両側部)	300	34	11.3	0.21
対照区(露地)	300	39	13.0	1.6

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 雨よけ栽培による花腐れ細菌病防除効果が確認され、施設化の資料として利用できる。
- 2 開花後できるだけ早く除去する。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

昭和63年、平成元年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書